

## 聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

- **2** ダイナミックな多角的、立体的構造：背後に神意 [偶然はない]  
全聖書の構成の焦点は、人類の救い主イエス・キリスト
- **7** 最初に言及の原則：旧新約両聖書の用語の意味の一貫性  
その語が最初に登場する文脈がその意味を定義する  
「裸の状態」 → 神が備えられる「義の衣」で覆われるべき
- **6** 究極的に立証される神のすべての言葉  
キリストご自身が神のご計画の「しかり」、アーメン

## 使徒パウロの宣教

## その23

## 『コリント人への手紙第二』

## 5章

- : 1 「…地上の幕屋がこわれても、神の下さる建物があることを、私たちは知っています…」 :
  - \* キリストの弟子たちへの約束  
→ ヨハネ14：2、：19
  - \* パウロ、ここで「もし」（邦訳では定かではない）を使用
  - \* この表現「壊れない」ことが眼中に、死ぬことなく、直ちに主の御許に行ける！との含み  
「天にある永遠の家」 :
  - \* 私たちのこの世の生活はただの仮住まい
  - \* 被造物は個々の遺伝情報によって再生可能
- : 2 「私たちは…この天から与えられる住まいを着たいと望んでいます」（下線付加） :
  - \* 霊のための住まいとしての身体
  - \* 聖書では二箇所だけ登場
    1. 「天からのからだ」、甦りの身体に言及 → ここ
    2. 御使いたち、「天の住まい」をはく奪された → ユダ6、7節
- : 3 「それを着たなら、私たちは裸の状態になることはないからです」（下線付加） :
  - \* 神は、墮落したアダムとエバ（罪人）が、無実の動物の毛衣でおおわれるべきことを教えられた  
→ 創世記3：21
  - \* 掟の詳細が、イスラエルの民に明らかにされたのは、「レビ記」を通して
  - \* 人類の墮落以降、今日に至るまで、人間界の「義」は汚れた雑巾
  - \* ふさわしい衣を見つけるには？  
† 自らの状態、罪深さに気づく必要  
→ Cf. 黙示録3：17  
† キリストの「婚礼の衣服のたとえ」から教訓を得る  
† 「救いの衣」は「聖徒たちの正しい行い」に対して神が与えてくださる報酬  
→ イザヤ書61：10

## 聖書

## 光の衣

☆アダムとエバは墮落前、「光」を着ていたとする見解がある

→Cf. 詩篇104:2

☆その見解によれば、二人の「裸」の状態とは、  
最初与えられていた「光の衣」を失った状態ということになる

: 4 「…それは、この幕屋を脱ぎたいと思うからでなく、天からの住まいを着たいから…」 :

\* 究極的に、すべての者が甦らされる

: 5 「…神は、その保証として御霊を下さいました」 (下線付加) :

\* 「手づけ金」、頭金

: 6 「そういうわけで、私たちはいつも心強いのです。ただし…」 (下線付加) :

\* とこしえの生命の安全保障、一神とキリストの御霊、聖霊一 が

すでにキリストを信じる者の内に住んでおられるから！

\* 生まれ持った罪の身体とキリストを受け入れた自分の霊との間に格闘、霊の戦いが日夜ある

\* この霊の戦いは、信仰に歩むがゆえに起こる

: 7 「確かに、私たちは見るところによってではなく、信仰によって歩んでいます」 :

\* 神の民の居場所は地上か天上かのいずれか

→エペソ人3:15

: 8 「私たちは…肉体を離れて、主のみもとにいるほうがよいと思っています」 (下線付加) :

\* 信じる者にとって理想的な居場所

\* 「煉獄」などの概念は、聖書の中にない

: 9 「…私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです」 (下線付加) :

\* パウロにとって、天は単なる目的地ではなく、生きる動機であった

「主に喜ばれる」:

1. 身体を生けるいけにえとして献げる真の礼拝をする

2. キリストに仕え、ほかの人たちの益のために生きる

3. 自身を悪から切り離す

4. 献金を神にささげる

5. 両親に従う

6. 生涯、内住のキリストが御旨を成し遂げることができるよう自我を開け渡す

→ヘブル人13:20-21

\* 主に喜ばれること、その決意を実践に移すことが、  
自らを信仰生活の「最終試験」に備えることになる！

: 10 「なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現われて…」 :

\* 未信者は、キリストの大きな白い御座で最後に裁かれるが、信徒は…

→黙示録20:11-15

## キリストのさばきの座、「ベマ」

☆法廷、あるいは、御座

## キリストのさばきの座に至る過程

→コリント人第一3:12

☆下降順で列挙された「六つの物資」、一金、銀、宝石、木、草、わら一

\* 最初の三つは、創造のわざの産物

\* 最後の三つは、自然に生長、その結果の産物

\* 最初の三つは永遠、最後の三つは滅びを象徴

☆キリストのためにしたことは残る！

\* それ以外のものはすべて、焼失する

聖書

**区別されるべき「救い」と「報酬」**

☆救いは無償の賜物

☆報酬は、働き/結実で獲得

☆救いは、現在所有

☆報酬は主の再臨のとき、未来に獲得

☆キリストは弟子たちに、報いを約束

→マタイ6：1-6、：16-18ほか

☆天に宝を積みなさい！と奨励

→マタイ19：21ほか

☆報酬は、キリスト者の人生、信仰生活に合法的な動機を与える

→コリント人第一9：24、ヤコブ1：12ほか

**最終試験**

☆主の御前に清算、「申し開きをする」ときが来る

→ローマ人14：8-13

☆今は、そのための備えをするとき

①11節 良心に恥じることがない

②12節 自分を誇ったり推薦したりしない

③13節 人の批判に動じない

→Cf.コリント人第一11：31

☆いつも自らを吟味し、悔い改め、主の御前に正しく生きているなら、他人の批判を恐れることはない

：11「…主を恐れることを知っているので、人々を説得しようとする…」（下線付加）：

＊神との正しい関係から生み出される神に対する恐れ、畏敬の念

→ヘブル人10：31

＊パウロの恐れは、信徒が救われるかどうかという問題ではなく、信仰生活において、キリスト者が

自らの救いをどのように役立たせたかの申し開きに備えているかどうかの問題

：12「私たちはまたも自分自身をあなたがたに推薦しようとするのではありません…」：

＊神はいかなる不完全な器をも用いられる

＊パウロ、ここで、自分の信仰がほかの人に実際役に立ったかが問われると、主張

＊言い換えれば、

自身の救いをほかの人の役に立たせた者はキリストの裁きの座に立つ備えができています

：13「もし私たちが気が狂っているとすれば、それはただ神のためであり…」：

＊信徒は人の評価、是認に頓着しない、ただ、聖霊に依存する

＊信徒の関心は

キリストに栄光を帰し、失われた者に福音を伝えること、これが、信仰生活のすべて

：14「…キリストの愛が私たちを駆り立てるからです…」（NIV、新改訳2017の別訳）：

＊信徒が認識すべきこと

①すべての信徒、キリストのさばきの座の前に立たなければならない

②キリストなしでは、人はみな失われている

③信じる者、一人ひとりを駆り立てるキリストの愛

聖書

- : 15 「…生きている人々が、もはや自分のためにではなく…」 :
- \*パウロ、キリストに仕える者としての生き方に言及
  - \*信徒一人ひとりの所有者はキリスト
  - †信徒にとって第一優先はキリスト
  - †「キリストの福音」、一身代わりの死、埋葬、甦り— を日々覚えるべき
- : 16 「ですから、私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません…」 :
- \*信徒の真の人生に深く関わるのは、甦られたキリスト
  - \*受肉の奥義は、イエス・キリストが「ベマの座」に裁き司として着かれるとき初めてその真意が明らかになる
  - \*キリストは人を正しく裁くために、人となられた
- : 17 「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です…」 :
- \*キリスト者に対するパウロの定義！
  - \*完全に新しくされた人、それが「キリスト者」！
- : 18 「…神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを…」 :
- \*信仰による義認で、私たちに神との和解がもたらされた
- : 19 「すなわち、神は…違反行為の責めを人々に負わせないで…」（下線付加） :
- 奴隷、一罪人— オネシモの例**
- Cf.ピレモン17、18
- ☆パウロ、オネシモのピレモンに対する負債を肩代わり、オネシモに「無罪」が下された
  - ☆律法の要求が満たされたこと、一義認— により、ピレモンとオネシモは和解
  - ☆キリストが罪人、私たちにしてくださったことも、全く同じ
- : 20 「…私たちはキリストの使節なのです…キリストに代わって…」（下線付加） :
- \*キリスト者の役割はこの世への神の大使
- : 21 「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました…」（下線付加） :
- \*キリストご自身の愛が受肉の道を選ばせ、ご自分を十字架へと駆り立てた

**キリストの愛**

- ☆キリストを十字架に掛けたのは、私たち「全人類」の罪
- ☆自らの人生を來るべき「最終試験」に照準を合わせ定期的に吟味することは各信徒にふさわしいこと
- ☆キリスト者は「最終試験」に向かって信仰生活を送るとき、いつも「キリストの愛」を思い起こすべき